筑摩書房版『言語文化』（言文712）内容の特色

|  |  |
| --- | --- |
| **教科書名** | **調査の観点** |
| **（１）内容** | **（２）構成・分量** | **（３）表記・表現および使用上の便宜** | **４）その他** |
| **➀知識・技能** | **②思考力・判断力・表現力** | **③言語活動** |
| **言語文化（言文712）** | （１）言葉の特徴や使い方について理解を深める古文・漢文教材や近代以降の文学的な文章と、学習の手引きが充実している。 | A　書くこと書くことの資質・能力に資する教材や実践例が充実しており、十分配慮されている。 | 　主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。 | ・教材収録本数が多く、分野も多岐にわたり、教材選択の幅が広い。 | ・脚注や系図・地図、手引きや時代区分、脚問などが適宜掲げられていて効果的である。 | ・巻末付録の「古語の理解」「古典常識」授業に役立ち、評価できる。 |
| （２）我が国の言語文化に関する知識・技能が身につく古文・漢文教材や近代以降の文学的な文章と、言語活動が充実している。 | B　読むこと古文・漢文と、近代以降の文学的な文章について理解し、自らのものの見方、感じ方、考え方を深める教材が充実している。 | ・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。 | ・特に絵巻物などのカラー図版が時代・風俗を理解する際に有効である。 |
| （3）我が国の言語文化への理解を深める読書について、読書案内が示されており、十分配慮されている。 | ・教材ごとに「視点」が示され、生徒の学習の見通しがたつように工夫されている。 |
| ・単元ごとに「実践」が示され、単元を通じて身につける資質・能力が明確である。 |